

平成21年度学校体育振興事業

「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」

研究報告書

ふりがな 学校名	ながしまちよりつたかのすちゆうがっこう 長島町立鷹巣中学校
-------------	----------------------------------

校長名： 下村誠一

所在地： 鹿児島県出水郡長島町鷹巣1687

電話番号： 0996-86-0003

生徒が主体的に活動する指導法に関する研究
～武道指導における外部指導者との連携を通して～

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

海と山に囲まれた自然豊かな場所に位置する学校である。生徒は純朴であり、運動や体を動かすことが好きである。武道に関しては、剣道部が活躍した時期もあったが、部員数は年々減少傾向にある。今後は地域と連携した取組が必要である。

2 学校の概要（平成21年5月1日現在）

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
学級数	1	1	2	1	5	
生徒数	男	14	14	22	1	51
	女	20	24	20	1	65

教員数 14名（保健体育科1名）

武道・ダンスの授業の状況

領域:武道

領域の内容:柔道

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
配当時間	12	0	0	0	12	
担当教員数 (外部指導者)	1 (1)	0	0	0	1 (1)	
生徒数	男	14	0	0	0	14
	女	20	0	0	0	20

領域:ダンス

領域の内容:創作ダンス

	1年	2年	3年	特別支援 学級	計	
配当時間	8	10	10	1	29	
担当教員数 (外部指導者)	1	1	1	1	1	
生徒数	男	14	14	22	1	51
	女	20	24	20	1	65

II 研究の内容及び成果等

【研究成果の要点】

- 外部指導者との連携によって、専門的な立場からアドバイスをいただくことができ、教師の指導力向上につながった。また、生徒の動きの細かな点まで把握することができ、個別指導も充実することができた。
- 日本の伝統文化である柔道を学習するための環境が整備され、新学習指導要領に基づく実践をいち早く行うことができた。
- 当初は道衣の着方や帯の結び方で悪戦苦闘していた生徒たちであったが、礼法や基本的動作を毎時間繰り返すことによって、伝統的な所作が自然と身に付いてきた。また、練習を重ねるにつれ、男女とも積極的に技を掛け合ったり、畳の片付けでも分担して行うなど主体的に活動することができた。

1 研究主題等

(1) 研究主題

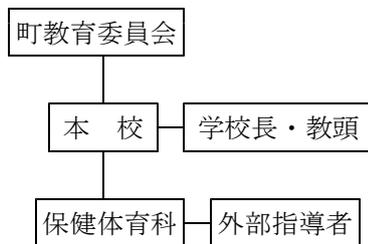
生徒が主体的に活動する指導法に関する研究～武道指導における外部指導者との連携を通して～

(2) 研究主題設定のねらい

柔道は、中学校で初めて学習する内容であるため、基本動作や基本となる技を確実に身に付け、それらを用いて相手の動きの変化に対応した攻防ができるようにすることが求められる。また、技能の上達に応じて、基本となる技を用いた自由練習やごく

簡単な試合で攻防を展開することを発展させて、得意技を身に付けるようにすることをねらいとしている。そこで伝統的な文化として発展してきた武道の学習を通して、年々本校でも課題とされている状況に応じた言葉遣いや相手を思いやる態度、発言、あいさつ、服装等の礼儀作法を守ることの大切さを学ばせる。また、外部指導者と連携することによって授業を充実させ、自ら課題を見出し、自ら考え、主体的に判断し、行動して、よりよく解決できる資質や能力の育成を図る。

(3) 取組体制



(4) 主な取組

平成21年度	11/30	オリエンテーション
	12/1	柔道衣の着方・礼法
	7	受け身・基本動作
	8	受け身・基本動作
	9	固め技 (2時間) (授業参観)
	14	膝車
	15	大外刈り (研究視察授業)
	1/12	体落とし (研究授業)
	15	かかり練習・約束練習・自由練習
	18	簡易の試合 (2時間)

男子は柔道の授業を楽しみにしていた生徒が多く、意欲を感じたが、女子は抵抗感を持つ生徒も数名いた。その理由としては安全面への不安や友達と体を触れ合うことに慣れていないことなどがあげられた。

(2) 取組

① 授業実践例 (研究視察授業)

大外刈りの習得を目標に授業を実施した。前回の反省を踏まえ外部指導者との打合せが十分にできていたので役割がスムーズにできた。大外刈りを示範した後に崩しの練習をフロアで、写真のように片膝を付いた状態から刈る練習を畳の上で男女交互に行った。次の段階では立った状態から刈る練習を畳の上で行い、最後に動きの中で刈る練習まで行った。今回は教師が崩しの担当、外部指導者は技の担当とした。釣り手、引き手、体の距離感を意識させた授業に取り組んだ。三つ同時に意識できず苦労していたが、技をかけて決まる楽しさが伝わってきて表情も良かった。



※ 投げられる生徒の足首に注意すること。

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 具体的な研究課題

体育の授業に対して興味・関心がある生徒が多く、授業前のランニングや準備を率先して行っている。しかし、自ら考えて行動したり友達と協力して問題を解決することが苦手な生徒も一部で見られる。

② 教師の指導力向上

今回の授業の打合せを兼ねて町の武道館で2時間程度指導法の研究を行った。3～4名で受と取の動きについて実際に練習した。また、受け身がなかなか上手くできない生徒に対しては、受け身を2～3段階に

分けたり、ペアで行ったりすることを話し合った。後ろ受け身はパートナーが肩を押した勢いを利用すること。横受け身は仰向けに寝て、あげた両足を左右に倒してもらって、その方向に受け身をする。前回り受け身は片膝から中腰そして立った状態と段階を経て実施することとした。

(3) 成果・課題

当初は柔道に関心が低かった女子が意欲的に取り組むようになり、日記等で毎時間授業の内容や感想を記入している。男子も早めに着替え、自主的に技の練習や質問をする生徒が多くなった。受け身も号令に合わせてスムーズにできる生徒が増えてきた。最後の授業で簡易の試合まで実施でき、団体戦形式で男女とも行った。1分間と短い試合時間ではあったが、全員がしっかりと組んで習得した技を掛け合っていた。全員の前で初めて試合をする緊張した表情と試合後のほっとした表情が印象に残った。勝った生徒はもちろん、引き分けや負けた生徒でも楽しく試合ができ、次は勝ちたいという感想が聞かれた。このように毎時間全員が楽しく、けが無く実施できたのが一番の収穫である。

また、外部指導者を活用することで技能の習得はもちろんのこと、程良い緊張感の中で武道の礼儀作法や心構え等も学ぶことができたことが良かった。



課題としては、今回は1年生のみを対象とした柔道の授業を行ったので、毎時間の畳の準備、後片付けに時間が費やされたことがあげられる。今後は2時間続けての授業等の工夫が必要である。

また、地域連携を続けるに当たっては打合せが重要になってくる。事前の打合せで授業内容の確認とその時間の役割分担の確認作業をして、事後で授業反省や次回の内容確認をする時間が必要になってくる。

3 研究成果の普及

授業参観で柔道の授業を実施し、保護者に生徒の様子を参観してもらったり、パワーアップ研修の研究授業でも柔道を実施して他の教諭と授業研究でいろいろ意見交換をしたりした。町内の同じ事業を受けた学校と連携を取りたいと考えている。今後は町の教科部会等で研究成果の概要について報告する。



4 今後の展望

今回の事業では柔道の学習をするための環境整備を行い、生徒に柔道という日本の伝統文化を体験させることができた。そのことで生徒に主体的に取り組む姿が見られるようになった。今後は平成24年度の武道・ダンスの完全実施に向けて、保健体育の指導計画を見直していく。特に各領域の時間の配分、実施時期について充分検討していきたい。外部指導者との打合せについても時間を確保し、生徒が柔道の本質に触れられる授業を展開していきたい。